



標榜科目変更のご挨拶

院長 大村 泰



当院は、開院から今日まで外来診療、訪問診療などかかりつけ医としての医療、神経難病などの重看護・介護を伴う医療、そして人工透析医療など地域に密着した医療及び慢性期入院医療の充実に努めてまいりました。昨年11月からは、地域包括ケアシステム構築へ少しでも貢献できるよう、急性期の治療を終了し病状が安定した患者様に対して、在宅復帰に向けて医療管理、リハビリ、退院支援など効率的かつ密度の高い医療を提供するために、回復期リハビリ機能を含んだ地域包括ケア病床を開設いたしました。

またこの度、内科的専門知識と技術をもって診療することを明確にする為、標榜科目を下記の通り変更いたしました。

「内科、リハビリテーション科、腎臓内科、脳神経内科」

地域医療の充実が求められる中、今後も地域住民の皆様、医療機関福祉施設の皆様と一層の連携を図りながら、微力ではありますが職員一同一丸となって医療の充実と質の向上に努め、地域医療の更なる推進を図ってまいりますので今後とも宜しく申し上げます。

褥瘡ケアの勉強会を開催しました

栄養の観点からみた褥瘡ケアの勉強会を行いました。

主な褥瘡治療として、除圧管理、スキンケアはよく認識されていますが、今回の勉強会で栄養管理も重要であることを再認識しました。

また栄養管理を行う上で、血液検査項目の確認が重要であること、栄養素の中で褥瘡治療に大きく関係する栄養素の種類などもお話いただきました。

また、創傷治療過程それぞれにおいて必要な栄養素の種類が違ふこと、褥瘡の重症度と栄養評価との関係についてもお話いただきました。

栄養不良は褥瘡発生リスクを高めること、褥瘡の栄養摂取目標を考慮することが大切であるという事を常に考えながら今後も看護業務に取り組んでいきたいと思ひます。

本館看護師長 住本順子



虫の声

9月に入ると蝉時雨に代わって聞こえてくるのが「すずむし」や「こおるぎ」などの虫の声ですが、これらもなかなか風情があつて良いものです。ところでこの虫の声、聞こえるのは世界で日本人とポリネシア圏人だけという事をご存知でしょうか。ほとんどの民族は虫の声を右脳で認識するのに対し、日本人とポリネシア圏人だけは左脳で認識しており、そのため、日本人とポリネシア圏人は虫の声を「言語」として認識しているのに対し他の民族は「雑音」として認識してしまい、脳が虫の声を聞こえないようにシャットアウトしてしまふそうです。

意外ですがこれは人種が持つ遺伝子の問題ではなく、どの言語を常用語として使用するかという点で決まるそう、たとえば日本人やポリネシア圏人でも日常的に外国語を常用する者は、虫の音が「雑音」として認識され、外国人でも日本語やポリネシア語を常用する者は、虫の音が「言語」として認識されるそうです。

日本語・ポリネシア語以外の人は、まず母音を右脳で雑音として受け止めてから、子音を左脳で言語として処理するのに対し日本人とポリネシア人は母音も子音も区別せず言語である左脳で処理する民族で、これは極めて珍しい民族性だといふ事ですが、人類学の観点から一部の日本人のルーツはポリネシア圏から渡来したという説もあるようなので何となく納得できるお話ですね。

とにもかくにも、虫の声を楽しむことが出来る日本人で本当に良かったと思ひます。

是非今晩は虫の声に耳を傾けつつ一杯♪♪♪

秋の夜長を楽しんでみてはいかがでしょう。



診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）・お盆（8月15日）

担当医

月曜日	午前：青山	午後：宮里	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：宮里	午後：大村	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：大村	午後：腎臓内科 (細川・森本)	土曜日	午前：内科(交代制)	

季節の風景



暮夏